Su - An
巣庵

Glass-Fondue /Branch/ Nest

個体というガラスのもつ既存のイメージから解放する。

加工されたガラス材と木材を組み合わせるのではなく、液体の状態のガラスに枝木をフォンデュのように封入し、はじめからそういう存在であるかのような材を作る。
ガラスにはとても厚みがあり、ムラがある。そのためガラスの中の枝木はどこか歪み、木質のようでありながらまったく違うガラス質のものである。

これを編むように噛み合わせながら、鳥の巣を逆さまにしたような塚のような空間を作る。
ぎっしり編み込んだ空間にはガラスの厚みによってできる隙間から光が入る。

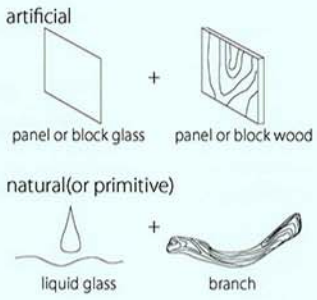
隙間の光は枝木を包むガラスを通過する際に屈折し、プリズム効果を生む。

光はガラスを伝わり内側に回り込み空間をコーティングする。

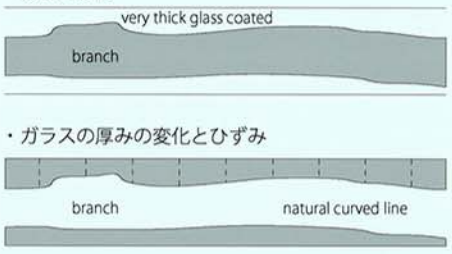
このガラスの枝木でできた小さな庵は、虹色の光に満たされる。

・ガラス質と木質の出会い

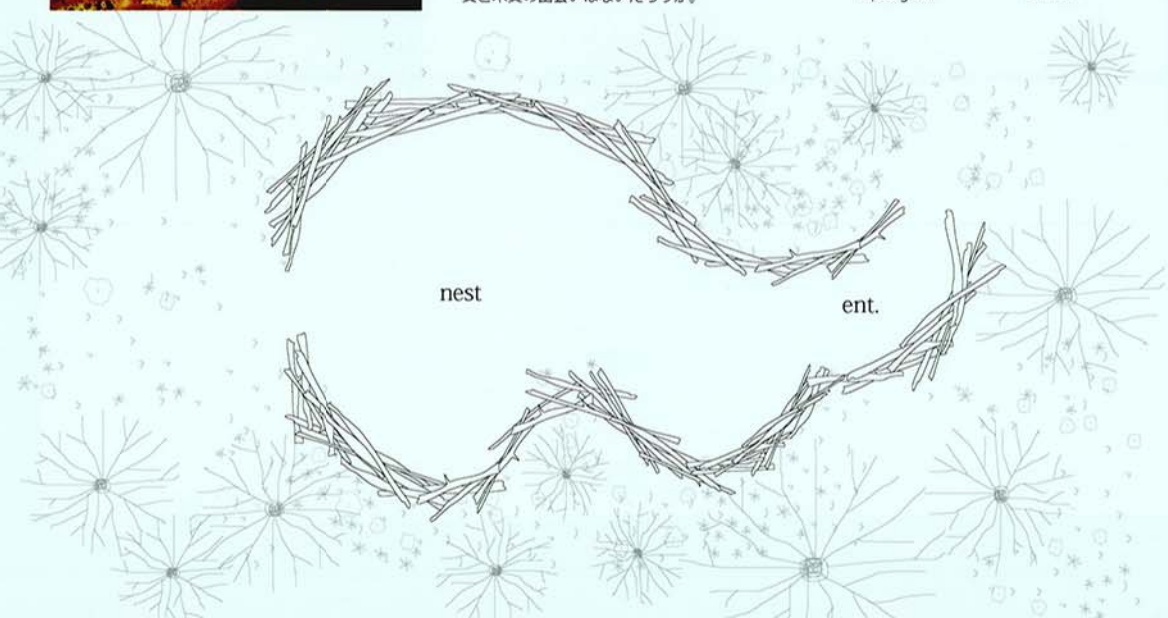
従来の建材としてのガラスのイメージを一度忘れたいと思った。ガラスを捉える概念を、単純に透明であるという状態として捉え直し、既に板状などに加工されたものを出会わせるのではなく、もっと原子あるいは原始的なところで出会わせる。
どこか違和感を孕みつつも初めからこういう存在なのだと受け入れてしまうようなガラス質と木質の出会いはないだろうか。

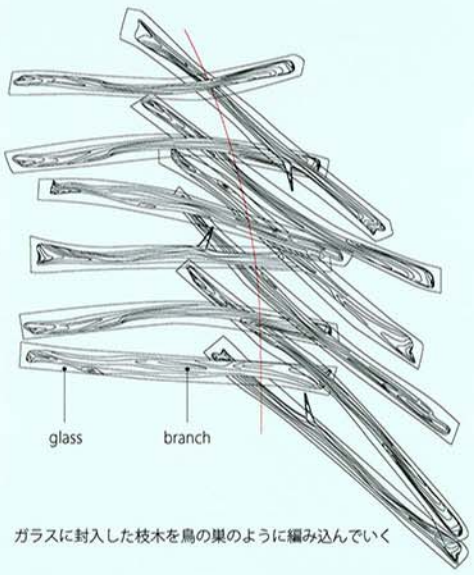
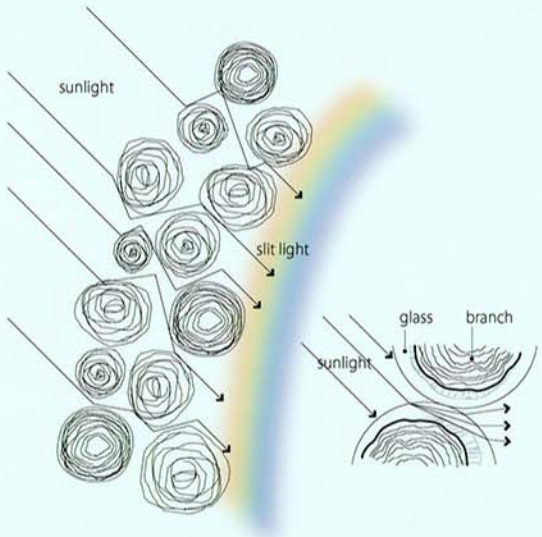


・ガラス漬け



・ガラスの厚みの変化とひずみ





ガラスに封入した枝木を鳥の巣のように編み込んでいく